

# 指導死 shidoh-shi symposium

## 「指導死」シンポジウム 8 「指導死」はなぜ起こるのか ～善意が子どもを追いつめる～

日時：2018年2月25日(日) 13:00～17:00 (開場 12:30)  
資料代：1,000円 (学生 500円) (先着 60名 事前申し込みをおすすめします)  
申込先：4104@2nd-gate.com または fax 03-6804-2926  
会場：ウイングあいち15階 愛知県立大学サテライトキャンパス  
所在地：愛知県名古屋市中村区名駅4-4-38  
主催：「指導死」親の会 (4104@2nd-gate.com)  
協力：全国柔道事故被害者の会・学校事故事件遺族連絡会

日本福祉大学  
野尻紀恵さん  
による基調講演  
決定!



第一部 基調講演  
日本福祉大学 野尻 紀恵さん  
第二部 パネルディスカッション  
野尻 紀恵さん  
全国柔道事故被害者の会  
「指導死」親の会  
電車をご利用の場合  
(JR・地下鉄・名鉄・近鉄) 名古屋駅より  
◎JR名古屋駅桜通口から  
ミッドランドスクエア方面 徒歩5分  
◎ユニモール地下街5番出口 徒歩2分

## 「指導」を受けた子どもは、なぜ「自殺」するのか？

**生徒指導を背景とする  
子どもの自殺「指導死」**  
「指導死」とは、生徒指導を原因・きっかけとした子どもの自殺を意味します。被害遺族を中心とした「指導死」親の会)では、指導死の再発防止のため、文部科学省への対策申し入れやシンポジウムなどの活動を行ってきました。「指導死」の背景となる「指導」は、学校の外で行われれば、パワーハラスメントや児童虐待など法律に抵触する可能性のある行為を含みます。「いじめ」が、学校の「病」であることは広く知られていますが、「生徒指導」という「病」もまた存在しているのです。

**福井県池田町で  
起きてしまった「指導死」**  
2017年3月14日、福井県池田町の町立池田中学校で中学2年生の男子生徒が命を絶ちました。この生徒は、生徒会の副会長を務めていましたが、担任や副担任から半年間にわたって執拗な叱責を受けていました。母親に「僕だけ強く怒られる。どうしたらいいのかわからない」と訴えて登校も渋るほどでした。母親も副担任を変えてくれるよう学校に要望したこともあったようです。けれどもこの願いは聞き入れられることなく放置され、最悪の結果を迎えてしまいました。

**指一本触れられることなく  
死に追い詰められる子どもたち**  
教育評論家の武田さち子さんの調べによれば、平成元年(1989年)から2017年12月までに73件の「指導死」が発生しています。そのうち88%は、いわゆる「体罰」をともしないもので、81%は部活動と関係なく起きています。なぜ指導を受けた子どもが、自殺にまで追い込まれてしまうのでしょうか。今回のシンポジウムでは、「指導死」がなぜ起きてしまうのか、どうすれば防ぐことができるのか、指導の現実、課題など、さまざまな角度から問題を探っていきます。

- 生徒指導を原因・きっかけとした子どもの自殺「指導死」の定義
1. 不適切な言動や暴力等を用いた「指導」を、教員から受けたり見聞きすることによって、児童生徒が精神的に追い詰められ死に至ること。
  2. 妥当性、教育的配慮を欠く中で、教員から独断的、場当たりの制裁が加えられ、結果として児童生徒が死に至ること。
  3. 長時間の身体の拘束や、反省や謝罪、妥当性を欠いたペナルティー等が強要され、その精神的苦痛により児童生徒が死に至ること。
  4. 「暴行罪」や「傷害罪」、児童虐待防止法での「虐待」に相当する教員の行為により、児童生徒が死に至ること。